

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX03(3207)3918
E-mail:shimpoh-c@uccj.org

発行人 竹前 昇
編集主筆 竹澤 知代志
印刷所 株式会社きかんし



によった。特に教
係について、常議
教区からの各種種
いに改善が見られ
沖縄教区議員欠
「強行」開催さ
会への抗議等、
団執行部との問
姿勢で臨んでゆ
要」とした。この
にするため、昨年
総会も教団問安使
沖縄教区と共に門
の教区となった。

団との関
員会での
望の取扱
ない点、
席の中で
た教団総
後も現教
は厳しい
ことが必
点を鮮明
に続き今
を拒否。
安使拒否

京都

員会は今総会、司式者だけが按手を行うことを決定した。司式した望月副議長は「教区を代表して執行した」と述べた。

法定議案以外では、主に三つの議案が注目される。第一は、地区名称変更の議案。教区内三地区のうち府下地区、市内地区の名称が西丹地区、京都南部地区と変更されることとなった。旧名が地区の実情に合っていないことが変更の大きな

常置委員

【教職】大澤宣（紫野）、
府上征三（洛陽）、後藤正
敏（平安）、入治彦（京都）、
一木千鶴子（丹波新生）、
関雅人（大津東）、山田真
理（上鳥羽）

【信徒】志賀勉（紫野）、
平田真貴子（平安）、原田
潔（大津東）、谷口ひとみ
（八幡ぶどうの木）、奥野力
ネコ（膳所）、田中義久（洛
西）中井正子（堅田）

（渡邊義彦報）

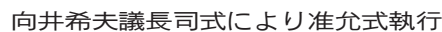
大阪・京都・九州・四国・北海

大阪

目を迎える関西労伝は、募金一八〇万円の他、教区の各種負担金より二〇万円の援助を得ることとなった。

る本議案をめぐることは贅言
阿論が活発に交わされた。
提案者らは、未受洗者に配
餐するいわゆるフリー聖餐
は重大な教憲教規違反であ
り、宣教協約を結ぶ諸教会
への背信行為であり、求道
者への混乱と不信を招いて
いるなどと指摘した。それ
に対して、フリー聖餐を禁
じる規則はない、正しい聖
礼典の「正しさ」は主観的

【箕面、岡村恒（大阪）
上地武（大正）、鶴山英夫
（大阪淡路）、市川忠彦（長
居、伊藤義経（蒲生）、似
田兼司（千里丘）
【信徒鎌田英子（玉出）、山
田淳子（大阪聖和）、池田
和弘（浪花）、渡部清数（扇
町）、楠原道温（茨木）、糸
本資（石津）、丸山健樹（和
歌山）、江本義一（茨木東）
（藤盛勇紀報）



教会の根幹に関わる課題が前面に

副議長が教団問安使として挨拶し、正午過ぎまで質疑応答が行われた。

議長 副議長 常置委員
選挙結果、書記の選任は下
記の通り。三役は再選され
た。【議長】向井希夫（大
阪聖和）【副議長】村山盛
芳（浪花）【書記】佐藤成
美氏（高槻）
常置委員

常置委員

【教職】伊勢富土夫(天滿)、森田喜之(いずみ)、田邊由紀夫(茨木)、福万広信(大阪昭和)、小林よう子(箕面)、岡村恒(大阪)、上地武(大正)、館山英夫(大阪淡路、市川忠彦(長居、伊藤義経(蒲生)、似田兼司(千里丘)

山兼司(千里丘)

【信徒】鎌田英子（玉出、山田淳子（大阪聖和）、池田和弘（浪花）、渡部清数（扇町）、楠原道温（茨木）、糸本資（石津）、丸山健樹（歌山）、江本義一（茨木東（藤盛勇紀報）

(藤盛勇紀報)

方法を決定し、教区全体の協議会によつて諸教会の理解を得ることとなつた。新算定方法は〇六年度から適用の見込み。

用の見込み

【教職】大澤宣（紫野）、
府上征三（洛陽、後藤正
敏（平安）、入治彦（京都）、
一木千鶴子（丹波新生）、
閑雅人（大津東、山田真
理（上鳥羽）

理(上鳥羽)

【信徒】志賀勉（紫野）、
平田真貴子（平安、原田
潔（大津東、谷口ひとみ
（八幡ぶどうの木、奥野力
ネコ（膳所、田中義久（洛
西）中井正子（堅田）
（渡邊義彦報）

(渡邊義彦報)

共生・連帯・平和を基本方策に

九州

第五回九州教区総会
は、五月二日から四日の三日間、福岡中部教会を会場に開会時、正議員二五〇名中一六七名が出席して開催された。

東島勇気議長は第五四回教区総会後の各宣教課題と活動を中心に九ページにわたる議長報告を行った。九州教区が抱える問題の深刻さ、課題の豊富さ、取り組みの多彩さが伺われた。

最後に一九九七年五月より四期八年間、教区議長として、多くの方々の支えにより働くことができたことを感謝し、「新しい議長が今の総会で選出され、教区の益々の発展を願う」と挨拶を述べた。

この後、議長選挙が行われ、二回目の投票で西畑望氏(大分)が選出された。副議長には決選投票で深澤奨氏(佐世保)が選出され、書記は沖田康孝氏(長崎馬町)が選任された。

文の字句が修正された後、原案が可決された。

議案では次の三件が可決

- 一、受按者・受允者承認に関する件
- 二、特設委員会設置に関する件



新任教師を紹介する九州教区総会

議場での審議・承認後、一名の按手礼式、五名の准允式が執行された。

二、九州教区と韓国基督教長老会・群山長老との宣教協約継続に関する件

三、特設委員会設置に関する件

現在設置されている下記東北地方特別開拓伝道」について講演し、困難な伝道の歩みを共有した。

三日午前、来賓の方々から挨拶を受けたが教団問安使挨拶では、山北宣久議長の教区総会への挨拶を中心にして、厳しい意見が相次ぎ、教団への意見要望が多く出された。

最終日に、建議が二件提出された。

「新しい歴史教科書を作る会」が提案し、編集・執筆を主導した『改訂版 新しい歴史教科書』新訂版新しい公民教科書』共に扶桑社刊)を採択しないよう、九州各県市町村の教育委員会に要望書を提出する件は可決された。

開会礼拝の式順の中に、「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」を入れないことを求める件については、賛否両論に別れ、時間をかけて議論されたが、決議には反対する意見が出され、常置委員会の付託の動議が賛成多数で採択された。

常置委員

【教職】東島勇気(門司大里)、布田秀治(鹿児島)、梅崎浩二(厚川)、入江清弘(香椎)、戸田泰都子(田川)

【信徒】川畑馨(佐世保)、伊津見七生子(若松浜ノ町)、松山萌子(八代)、今村泰子(平和人権部門)、浅野直人(福岡警団)

伝道所の信徒を 教憲教規改正を

北海

第六回北海教区定期総会、四月二八、二九の両日、札幌教会を会場に、正議員一二三名中、開会時で九八名が出席して開かれた。

議長総括では、宣教計画について「革新・連帯・平和」を柱に取りまとめ、教区財政については、教区活動連帯金の減額措置によって厳しい環境となること、アイヌ民族・台湾原住民(ユエンツォーミン)の宣教に関するパートナーシップについては、台湾基督教長老会より原住民(ユエンツォーミン)の宣教師が派遣され、具体的な歩みを始めたことは特筆されると報告された。

午後には分科会(第二読会)が開かれ、宣教計画に基づく活動計画を中心に審議が進められた。

その後、会場を礼拝堂に移して総会礼拝が行われ、礼拝の中で二名の按手礼が執行された。

二日目は議事に先立つひと時、協議会を開催した。

小林真教団副議長、石橋秀雄関東教区常置委員、小林聖兵庫教区副議長、秋山の理解を深め、熱心な質疑を行った。

この結果、二〇〇五年度活動計画に関する件」について分科会報告に基づいて、一部修正の上可決した。

【信徒】今多正行(札幌元町)、竹村泰子(札幌北光)

信徒が展望する伝道の明日

四国

第六三回四国教区定期総会、四月二九日から三十日まで、松山・ホテル椿館を会場として開催された。

議長一五七名中一三三名(開会時)が出席した。

第一日目は主として昨年度の報告がなされた。議事と並行して教区三役の改選がなされ、議長に野村忠規氏(松山城東)、書記に黒田若雄氏(須崎)が再選された。

副議長には黒田道郎氏(石井)が新たに選出された。また、常置委員の選出も行われた。

第二日目はまず山北宣久教団問安使の挨拶に対して質疑がなされ、挨拶文中の「相対的・絶対的」の言葉の意味やJNAC後の展望について質問があった。

その後、昨年度の報告・新年度の計画・予算の質疑

【教職】小島誠志(松山番)



問安使・来賓の方々と協議会を開催

町、佐々木美知夫(安芸)、榎本栄次(今治)、木村一雄(琴平)、芦名弘道(近永)、寺田恵英(松山)

【信徒】濱田康行(土佐)、野田雅子(多度津)、安宅登代子(石井)、長島恵子(鴨島)

兄弟、竹村徳子(高知)、村上良夫(新居浜梅香)

(黒田若雄報)

常置委員選挙では、教職、信徒それぞれ半数を改選した。結果は以下の通り。

【教職】佐藤幹雄(岩見沢)、田中文宏(真駒内)



新三役、左から黒田(若)書記、黒田(道)副議長、野村議長

開会礼拝・組織会の後、議長メッセージがなされた。野村忠規議長は、困難の中を歩む各教会を支えてくださる主を見上げて、共に祈り合いつつ教区の歩みを進めていきたいと述べた。

第一日目の議事後、信徒が展望する四国伝道の明日」との主題で、西澤邦輔氏(安芸教会)・矢野嗣夫氏

(新居浜西部教会)を議題者として協議会が行われた。西澤氏はキリスト教と関わりのない環境でキリスト者となったことを通し、復活の信仰こそが人を新たにし、復活の記念としての礼拝を守る者が起こされている事実こそ伝道の展望があると述べた。矢野氏は教会学校や青年会活動に関わった体験を通し、出席者数に左右されず継続することの大切さを訴え、揺れ動

く現実の中で変わらないものに立つ恵みを示していきたいと述べた。それぞれの歩みに基づく議題で、四国伝道の展望を考える時となった。

総会中に、関東教区村田元副議長より中越地震の被災状況と支援の取り組みについて報告があった。

また、教団関係学校や教団出版局・年金局からの報告を受け、それぞれの働きを覚える時となった。

少子高齢化が急速に進行

【教職】小島誠志(松山番)

町、佐々木美知夫(安芸)、榎本栄次(今治)、木村一雄(琴平)、芦名弘道(近永)、寺田恵英(松山)

【信徒】濱田康行(土佐)、野田雅子(多度津)、安宅登代子(石井)、長島恵子(鴨島)

兄弟、竹村徳子(高知)、村上良夫(新居浜梅香)

(黒田若雄報)

常置委員選挙では、教職、信徒それぞれ半数を改選した。結果は以下の通り。

【教職】佐藤幹雄(岩見沢)、田中文宏(真駒内)

伝道のともしび

与えられた恵みの中で

鷹巣教会牧師 岡村 宣

鷹巣教会では、明子さん、タマさん、富雄さんなど、互いに姓ではなく名で呼び合う。交わりの近さと共に、かつていくつかのクリスチャンホームが中核となっていたことの名残でもある。十五年前に赴任した時は、男性メンバーが三人いた。それぞれ長老の奉仕をし、福祉の町づくりの中核を担っていた。

十年前、四千万円の会堂建築の業は、教会員十六人の小さな群が神のみ手を実感した経験だったが、その直後から三人が次々と召され、一昨年、女性会員のみとな

組みを数年重ねた上で現在では毎週、子どもたちと共に守る礼拝の豊かさに与っている。礼拝で平和の挨拶をする中で、子どもたちも高齢の方々を「名」で呼ぶ関係が生まれている。



新会堂、はじめてのイースターに

秋田県北部、能代市と大館市の中間にある人口二万人余りの鷹巣町は、今年三月、近隣の三町と合併し、北秋田市となった。「福祉の町」として全国から注目を集めた、超高齢化、少子化が同時進行する過疎の地域である。

現在の十三人の会員は宣教の業に励んでいるが、教勢の面では現状維持が精一杯という状況だ。そのような日々、一人の受洗者が与えられる喜びは大きい。小さな群にとってはなおのことだ。同様に、一人が召されること、あるいは転出することがどれほど大きなことであろうか。共に宣教の業を担う一人の存在が互いに大きいのだ。

小さい群には運営の面で困難さがある。長老の奉仕を担う数人が婦人会役員であり、子どもプログラムのスタッフでもある。

また、幼稚園・保育園それぞれの法人の役員も担うこととなる。責任や奉仕が集中し、時にどうしようもなく疲れを感じることもある。そのような痛みを覚える中、鷹巣教会では、神の家族として思ふことを大事にしようとの思いから婦人会を解散し、教会全体で学び、奉仕することとした。

また、月に一回の「子どもと大人と共にある礼拝」の取り

組みを数年重ねた上で現在では毎週、子どもたちと共に守る礼拝の豊かさに与っている。礼拝で平和の挨拶をする中で、子どもたちも高齢の方々を「名」で呼ぶ関係が生まれている。

かれた教会としての取り組みをしたいとの願いから現在いくつかのことに取り組んでいる。一昨年から始めた映画会がその一つ。四月で十六回となったが、子ども向けの映画をプロジェクトで映し、毎回二十〜三十人の子どもと大人が楽しんでいる。クリスマス等にはこの子どもたちが友だちを誘って共に祝うこととなる。

幼稚園の保護者によるハンドベルサークルが教会を会場に活動している。ベルの音を響かせながら豊かな交わりが生まれ、時に育児相談がなされる。クリスマスには幼保の礼拝で、また地域の病院などを訪問し、豊かな音色と共に平和の心を伝えている。

そして、今年企画しようとしているのがファミリーコンサート。教会員によるコーラス（これがなかなか行けそう）、子どもたちのギターとハーモニカ（ストリートデビュー近し？）に加えて、地域の中高校生バンドまでも巻き込もうと思いを膨らませている。

礼拝から、様々な取り組みから、一人ひとりが神の前に覚えられ、互いに支え、新たな歩みに遣わされていく交わりを求めていきたい。

まど

「隠退教師を支える運動」三つの推進座談会報告

《奥羽教区》二〇〇四年十月二日（土）会場／弘前教会、十教会十五名参加
弘前教会竹内郁夫牧師は開会礼拝において「主にあつて互いに支え合うことの大切さ」を説かれた。

多田委員長は、挨拶の中で「教団年金の現状と将来への対策」と、年金を支えるために、いかにこの運動が重要であるかを語った。

参加者に受給者の遺族の方がいらしたことに、より、教団年金を身近なものとして捕えることができ、感謝であった。

《中部教区》二〇〇四年十月二日（金）会場／名古屋中央教会、七教会十六名参加
開会礼拝は会場教会の鈴木重正牧師が「奉仕は聖霊の働きによる愛の業」と説教された。

謝恩献金と百円献金の違いについての質問から始まった。まずは牧師と役員にこの運動の実態を正しく理解して頂き、信仰の継承の賜物として運動に参加しようとの一致をみた。

《東中国教区》二〇〇五年一月三日（日）会場／鳥取教会、七教会、九名参加（この会は鳥取県東部地区役員研修会との合併）

ひととき

村山順吉さん

音を通して福音のハーモニーを奏でる



1954 年東京生まれ。聖学院大学教授・みどり幼稚園副園長、境南教会員

村山さんは幼い頃からピアノを習い、将来の夢は指揮者であった。しかし聴力の関係で指揮者の道を断念せざるを得ないと知る。そのことで悩んでいた高校生の頃、祖母の導きで教会に行くようになった。そんなある夜、満天の夜空を見ながら、自分が気にしていることは、ほんの小さなことである。また、こんな小さな自分をかけがえなく大事にしてくれる方の存在に気が付かれた。自分の音楽家として生きる道は、困難を背負いながら歩むこと。「そこに生きよ」との主の声を聞いた。一九七七年クリスマスに受洗し、自分のためではなく、神から用意された道を生きる歩みへと変えられた。自分に与えられた生を一人

でも多くの人に捧げていく。神が与えてくださるからこそ、自分には出せない音があるのだから。

その後、不思議な導きで女子聖学院短期大学に奉職、多くの出会いを通して音楽と人間の生命との関わりを知った。村山さんは「音」は「福音の真理」を指し示すと言う。誰でも母の胎にいる時から固有の音を持っていて、また同じ音楽を聞きながら、その人固有の音を聞く。そこで音と人の生命が触れ合う時、感動と共に新しい命が生まれる。その人にしか出せない音、固有な生命の再生が起こる。神から与えられた、その人にしか

五月三日は憲法記念日であるが、複数の政党をはじめ、政界は憲法改正に向けての動きが急で、今や「平和憲法」も「風前の灯火」の様相。

私の住んでいる遠州教会には、市民運動の「浜松市憲法を守る会」の事務局があり、毎月一回、役員会を開催し、翌月配布の「護憲チラシ」原稿の担当決定などの準備をし、当教会で印刷。翌月の第二日曜午後、市役所に集まり、小集会後に浜松駅までチラシを配布しながらデモ行進をし、この五月が四五九回。つまり、三十八年間は継続されていることになる。

加えて昨年には「浜松・憲法九条の会（私が代表者）」を立ち上げたこともあり、三日に講演会を開催し、二百名近い参加。

憲法記念日に

問安使への質問に答え、「正しい聖礼典の執行」の説明をする中で「憲法とは、憲法と同じで、日本基督教団という教会のかたちを言葉で表わし、その教会の内実あらしめ、整えるものが教規である」という内容を語らせていただいた。さらにこれが私たちの土俵であり、守るべきもので、ここから踏み出されると議論が成り立たないのではないかと、とも語った。

伝道論などには多様性がなければならぬだろう。しかし、教憲・教規に対する姿勢には多様性があるのではないのである。

（教団総会副議長 小林 眞）

お知らせ

★第5回「農」に関する活動者協議会開催／時6月20日（月）14時〜21日（火）11時／所北海道クリスチヤンセンター／講演五十嵐紀子（名寄教会員、道北三愛塾メンバー、恵泉レディスファーク）／発題交渉中／費用／教区推薦（交通費、宿泊費伝道委員会負担）自主参加（実費自己負担）／オプショ（1）余市「いのちの園」（2）道北見学コース、（3）道東見学コース／申込・問合せ／教団伝道委員会TEL03-3320210544